

大学等名 熊本大学

令和6年度(R5年度実績)自己点検・評価

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

熊本大学理学部等アセスメント委員会

(責任者名) 磯部博志

(役職名) 理学部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
本プログラムの履修・修得状況	令和5年度開講の「数理科学特別講義A」の3年生の履修率は34%(23年度に履修した3年生75名/3年生224名)、4年生の履修者は8%(23年度に履修した4年生14名/4年生181名)であった。また、令和5年度の「数理科学特別講義B」の3年生の履修率は18%(23年度に履修した3年生40名/3年生224名)、4年生の履修者は3%(23年度に履修した4年生5名/4年生181名)であった。 「数理科学特別講義A」と「数理科学特別講義B」の単位修得率は、それぞれ44%(単位修得者39名/履修者数89)、53%(単位修得者24名/履修者数45名)であった。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度(学修成果の確認)	「授業改善のためのアンケート調査」に基づき、学生の内容の理解度と学修成果の確認を実施した。なお、「目標が達成できた」は「十分に達成できた」「少し達成できた」の総和である。また、「有意義であった」は「非常に有意義だった」「有意義だった」の総和である。 必修科目「数理科学特別講義A」においては、目標が達成できたという回答は75%、有意義であったという回答は85%であった。必修科目「数理科学特別講義B」においては、目標が達成できたという回答は91%、有意義であったという回答は82%であった。 このようにいずれの科目も、アンケート回答者においては理解度が高い水準にあることがわかる。しかし、必ずしも全ての履修学生がアンケートに回答する訳ではないため、実態の把握が困難である。今後はアンケートの回答率を上げるため、担当教員からの受講生へのアンケート協力依頼を実施する。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	「数理科学特別講義A」のアンケートの自由記述によると、「いろいろなアプリケーションを試すことができたので、今後使うときにスムーズに始められると思う。」「データサイエンスについて具体的に触りだけでもよかった。Bも受講したい」等の記述があり、他の学生への推奨度が高いものと解釈される。 他方、「数理科学特別講義B」のアンケートの自由記述の回答がなく、推奨度の把握は困難であった。
履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	プログラム必修科目「数理科学特別講義A」「数理科学特別講義B」いずれについても令和7年度目標の履修率40%に向けて、履修者数を増やすために、対象学年である3年生ガイダンス・4年生ガイダンスにおいて、より一層の周知をはかる。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	プログラム修了者で卒業した学生が未だ少ないため、今後、多数のプログラム修了者が卒業したタイミングで調査を開始する。卒業生の進路状況の把握に努めるとともに、就職先アンケート等の実施により、活躍状況、企業等の評価について、確認を行う予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	理学部には、企業の方を外部講師とした講義「理学概論」がある。今後、講義担当の外部講師に依頼し、教育プログラムの内容について学外の意見を聴取する。聴取結果に基づいて、産業界における課題の発掘、データサイエンスを通じた連携など、多角的に取り組んでいく予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「数理科学特別講義A」では、物理学、化学、地球環境科学、生物学におけるデータサイエンス・AIの活用事例を紹介し、学ぶことの意義を理解させる内容である。 「数理科学特別講義B」では、「数理科学特別講義A」で学修したデータサイエンス・AIの数理的理論を題材とすることで、数理の重要性を理解させる内容である。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	「授業改善のためのアンケート調査」に基づき、それぞれの科目の内容・水準を評価した。 必修科目「数理科学特別講義A」においては、非常に難しかったとする回答が55%である一方、授業の組み立てや進度などが工夫されていたとする回答が95%、教材が有効であったという回答は95%、教員との双方向的なやりとりがあったという回答は75%であった。 必修科目「数理科学特別講義B」については、非常に難しかったとする回答が9%ある一方、組立や進度の工夫91%、教材の有効性91%、双方向性が82%であった。 このようにいずれの科目も、内容・水準を維持しつつ、「分かりやすい」授業とするための工夫があったことがわかる。今後も、アンケートを活用しつつ授業改善に取り組む。